

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

バングラデシュ人民共和国

ビロル地域開発プログラム(BGD-186137)



ADPの水・衛生委員会の会長を務める母親のマモニさんと食事の支度をするシャンタちゃん(13歳)

チャイルドストーリー

両親が教育の重要性を理解し、定期的に学校に通えるようになりました

ビロル地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすシャンタちゃんは、幼いころから医師になるのが夢で、一生懸命勉強をしていました。しかし、両親は地域の慣例どおり、ある程度の教育を受けたらシャンタちゃんには結婚することを、弟には仕事を手伝って家計の助け手になることを期待していました。そのため、シャンタちゃんは夢をあきらめかけていたと言います。

しかし2008年にADPの活動が始まり、両親はワールド・ビジョン(以下、WV)のスタッフから活動の説明を受けて、シャンタちゃんをチャイルドとして登録しました。これが転機となり、両親は子どもの権利、衛生、そして教育の重要性について、多くを学んだと言います。母親のマモニさんは、今では地域の水・衛生委員会の会長となり、地域の人々の保健や衛生、安全な水に関する活動をリードしています。

一方シャンタちゃんも、子どもの権利や生きていくために必要な力や知識、リーダーシップや友だちとの関係づくりなどを学ぶ「チャイルド・フォーラム」のメンバーとして活動しています。「チャイルド・フォーラムに参加したことによって自信がつかえました。自分が得た知識や経験を使って、ほかの子どもたちの役に立ちたいです」と話してくれました。



家で勉強するシャンタちゃんと弟

子どもの生活環境改善プロジェクト

5歳以下の子どもと、母親の栄養・健康改善を目指しています

2014年度も、支援地域の子どもたちにとって最も大きな課題となっている栄養不良の改善に取り組みました。特に栄養状態の悪い3歳以下の子どもと、その母親を対象にした栄養改善プログラムに675人が参加し、うち424人に改善が見られました。また特に貧しく、栄養状態の悪い子どもが



ADPの支援によって乳牛を飼い始めた家族

いる77世帯に牛を、1,357世帯に野菜の種子を、789世帯に果物の苗木を支給しました。家族で消費したり、作物を販売し収入向上につなげることで、子どもたちが自宅でも栄養価の高い食事を摂れるようになることを目指しています。さらに、ADPのトレーニングを受けた39の女性ボランティアグループが積極的に活動しています。メンバーたちは地域のクリニックと連携しながら、産前産後の健診を受けることの重要性などについて啓発活動を行うだけでなく、妊娠中・授乳中の女性の自宅を定期的に訪問してカウンセリングを行っています。これらの活動の結果、人々の意識は少しずつ変化しており、産前産後の健診を受ける女性たちが増加しています。

 **675**人が
栄養改善プログラムに参加

収入向上：特に貧しい世帯を中心に支援しています

122世帯が、より生産性の高い農業技術と家畜飼育のトレーニングを受け、実践しています。また特に貧しく、5歳以下の子どもがいる63世帯に対し、農業以外の収入手段を得られるようリクシャーを支給しました。さらに、ADPの活動が地域に根付き、WVの撤退後も持続していくよう、地域住民が組織する開発グループの育成を図っています。現在、合計18グループで約400人が活動しており、組織力を強化するためのトレーニングを行ったほか、小規模ビジネスやメンバーへの融資を行っているグループもあります。



支援によってリクシャーを得、新たな収入手段として活用している男性



 **400**人が
開発グループの活動に参加

収入向上のための活動として、紙の菓子箱を作る女性たち

教育プロジェクト

初等教育の質の向上に力を入れています

支援地域でも特に環境の悪い小学校15校を対象に教材の支給や、教師50人に教授法のトレーニングを実施したほか、各学校の学校運営委員会（SMC）の強化にも取り組みました。バングラデシュの農村部では、地域住民やPTAなどで組織されるSMCが学校を運営するのが一般的です。この15校ではSMCが十分に機能しておらず、教育の質の低下を招いていましたが、ADPのトレーニングなどを通してメンバーたちに責任感が芽生えています。定期的に教師たちとのミーティングを開き、必要な支援を受けられるよう地域の行政機関との関係構築も行っています。

また、これまでに設立した39の就学前教育センター（ECDセンター）に、2014年度は3～5歳の子どもたち776人が通い、ベンガル語や英語の読み書き、数字、歌やダンスなどを楽しく学びました。ECDセンターで学ぶことは、小学校での授業を受けるための準備となり、落第や中途退学の防止にもつながります。

ADPの支援によって完成した校舎で勉強する子どもたち。以前は野外で授業を受けていました

776人の子どもたちが
就学前教育センターで学びました

ECDセンターで学ぶ就学前の子どもたち



地域の女性インタビュー

地域の子どものための教育向上と早婚防止のために活動しています

Q.家族構成を教えてください。

夫と2人の息子（22歳、16歳）、娘（12歳）の5人家族です。

Q.子どもの頃学校に通いましたか。

8年生を修了した後、若くして結婚し14歳で長男を出産しました。

Q.ADAPのどのような活動に参加していますか。

学校運営委員会のメンバーとして地域の人々に教育の重要性を伝えるとともに、子どもたちが学業を修了できるよう親たちに働きかけています。この結果、良い将来のためには教育が重要だと子どもも親も理解するようになり、以前より熱心に勉強する子どもが増えたと感じます。また、地域の人々に清潔な生活習慣の重要性や、早婚のリスクについても伝えています。

Q.今の夢を教えてください。

以前は私自身が教育の重要性を認識しておらず、長男には十分な教育を受けさせることができませんでした。次男と娘にはできるだけ教育を受けさせ、将来良い職業につけるように助けたいと思います。また、私自身若くして結婚しましたが、地域で早婚がなくなるように、人々に早婚のリスクと教育の重要性を伝えていきたいです。



地域の小学校の学校運営委員会のメンバーとして活動するサピナさん（36歳）



ADPマネージャー・インタビュー

Q ADPでどのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、予算に基づいたプロジェクトの企画運営、行政や関係機関との交 渉や連携、プロジェクトの報告と評価、ADPスタッフの管理などを行っています。

Q 2014年の活動で困難だったことは何ですか。

総選挙に起因する政情不安の中、安全に活動を進めることに神経を使いました。地域の人々は設備や物の提供を望むことが多いのですが、物質的な支援だけでなく、人々の意識を向上させることが、持続可能な地域開発のカギだと思っています。

Q WVで働く原動力となっているものは何ですか。

最も弱い立場の子どもたち、貧しく虐げられた人々のために、自分個人でできることは限られています。チャイルド・スポンサーの皆さまのご支援により、WVという組織を通して大きな規模の支援ができることに感謝しています。



ビロルADPマネージャー スジット・コスタ (38歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



学用品の支援を受けた子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

BGD-186137

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

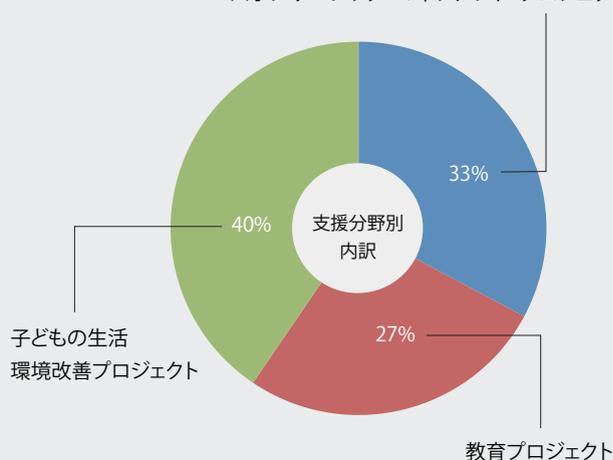
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	54,855,439
当期支援額	54,855,439
前期繰越金	3,199,270
プログラム支援額合計	58,054,709

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	19,093,137
教育プロジェクト	15,514,073
子どもの生活環境改善プロジェクト (栄養改善、収入向上・経済開発)	23,570,186
プログラム支出額合計	58,177,396
次期繰越額	-122,687

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp